名 誉 会 員 追 悼

故　名誉会員　半明正之　氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元JFEスチール株式会社代表取締役会長　半明正之氏は、平成28年8月29日、逝去されました。享年75歳。逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和38年3月東京大学工学部冶金学科卒業後、日本鋼管株式会社に入社、昭和60年京浜製鉄所製鋼部長、昭和63年京浜製鉄所管理部長、平成4年取締役に昇任し本社技術総括部長、平成8年常務取締役鉄鋼事業部福山製鉄所長、平成11年代表取締役副社長、平成14年代表取締役社長に就任し、川崎製鉄株式会社との経営統合により、JFEグループを誕生させ、平成15年JFEスチール株式会社代表取締役会長、平成17年にJFEホールディングス株式会社の取締役と各要職を歴任されました。

氏は、日本鋼管入社後、20有余年にわたり、製鋼部門の業務に従事し、数々の技術開発により、業界の先駆者として製鋼技術革新の道を切り開かれてきました。溶銑予備処理・転炉複合吹錬、取鍋アークプロセス、連続鋳造軽圧下等、製鋼分野における一連の技術開発による高清浄高品質技術を確立、日本初の水平連続鋳造の技術開発を推進し、高級鋼の連続鋳造化を成功させるとともに、スラブの無手入化による熱延工場との直結操業（HDR）の実現も可能にしました。

本社技術総括部長、福山製鉄所長時代は、環境調和技術分野において、わが国で初めて廃プラスティックの高炉への大量リサイクルを実現するとともに、溶銑低Si化・高効率大量脱P処理技術を確立しレススラグ技術を完成させ、製鉄所の製鋼スラグを極限まで低減化し、環境への負荷を低減する現在の環境調和型一貫製鉄所の礎を築かれました。

JFEグループ誕生の際は、統合を成功させるためには「両社の人的融合が最も大事、下から上まで徹底的に進める」と主張され、周囲の反対を抑え、近接製鉄所間の階層別入替え人事を提案し、チャンピオン技術の相互移転や設備集約によるコスト削減等、統合効果の発現を加速されました。「出身意識をなくし、会社の為には何がベストかを考える」を率先垂範した真のリーダーでした。

氏は、若い頃の大病経験からか「一日一生」を旨とされ、仕事・遊びと公私を問わず、妥協しない方でした。その人柄は私心無く、「剛毅木訥」と言う表現がぴったりの方で、吶々とした語り口でしたが、決断は速く指示は的確でした。また、公正で平等、その温かさと厳しさを兼ね備えた指導により、優秀な人材を育成されました。

氏は、平成16年度には本会会長に就任し、日本鉄鋼業のさらなる発展にご尽力されたほか、日本鉄鋼連盟理事、日本金属学会評議員、経団連委員など、数多くの団体の要職を歴任し、鉄鋼技術分野に留まらず、広く我が国の産業経済の発展にもその深い学識と豊富な経験によって多大な貢献をされました。氏のこれらの業績に対して、平成19年に本会より渡辺義介賞が授与されると共に、名誉会員に推挙されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成28年11月
日本鉄鋼協会　会長　丹村洋一